

令和5年度 自己評価及び関係者評価

加古川市立氷丘南幼稚園

1 教育目標 『輝く笑顔 育ち合う仲間』 ～豊かな体験と人との関りを通して～

2 目指す子供像 ①健康で 明るい子 ②自分で考え 行動できる子 ③優しく 思いやりのある子 ④豊かに 表現できる子 ⑤根気強く 最後まで頑張りぬく子

3 評価基準 A：十分できた B：ほぼできた C：少し課題を残す D：不十分

評価項目	評価の観点	自己評価	◎成果 △課題 ※改善の方策	関係者評価
教育目標	幼児の発達段階や地域の実態に即し、幼稚園の特性を生かした内容であったか。	A	◎幼児が自ら気付き、考え、主体的に取り組めるように行事など、遊びを工夫しながら取り組めた。 △四季や季節の移り変わりを感じる保育の工夫が必要である。 △幼児の興味に合った更なる環境づくりが必要である。 ※季節や自然に触れながら保育を進められるように自然物の栽培や収集を計画的に取り入れ、職員間で更なる共通理解を図る。	・少ない園児数の中で、幼児の実態を捉え、工夫ある教育が見られる。 ・LEDに変わり、園舎内がとても明るく、幼児にとってよい環境となった。
	教職員の共通理解を図り、計画的・組織的に具現化が図られたか。	A		
	園舎、園庭が幼児にとって安全に主体的な遊びを展開できる環境であったか。	B		
保育活動	幼児の内面理解に努め、教師の関わりや援助は適切であったか。	A	◎一人一人の発達を把握し、思いや考えに寄り添いながら課題を考え、保育をすることができた。 ◎連続した学びにつながるように小学校と連携し、交流の機会が増えた。また、一緒に研修の場をもてたことは、接続に向けて大きな一歩となった。 △共主体を意識した環境の再構成に工夫が必要である。 ※連続した学びにつながるように小学校の先生に保育を公開したり児童と交流したりする機会を増やすことに努める。	・園外保育で園周辺の公園や学校に行き、交通ルールを学び、積み上げてきている。引き続き、安全な教育を行ってほしい。 ・小学校への連携がよくとれている。 ・小学校へよく遊びに行ってきたことが、先生方を身近に感じていることへつながっている。入学することへの安心につながる。
	発達に必要な経験ができたか、主体的な遊びが展開できたりするような環境が構成されていたか。	B		
	幼児期にふさわしい生活が展開され、幼児一人一人の発達課題に即した育ちが保障されたか。	B		
	保育記録を活用し、日々の指導につなげることができたか。	B		
	自然体験や様々な人々との交流などを通して、豊かな感性や思いやり、社会性を培う心の教育ができてきているか。	B		
運営・組織	教職員一人一人が共通理解を図り、協力して教育活動に取り組むことができたか。	A	◎一人で抱え込んだり決定したりせず、相談や報告することを心がけた。 ◎周りを見ながら、声を掛けたり一緒に考える機会をもったりしながら協力し、進めた。 ◎実際に小学校の4階まで避難する訓練ができ、幼児だけでなく、職員にとってもよい訓練となった。 △日頃より危機管理の意識を高めて行動し、咄嗟に対応できる力を養うことが必要である。 ※安全な園生活の見直しと危機管理に対する研修を確保する。	・常に職員間で話し合い、連携し、協力し合っている。 ・少ない職員数にもかかわらず、工夫しながら進めている。 ・小学校へ実際に避難し、4階まで上がったことは成果があったと思う。引き続き、行ってほしい。
	人間関係を大切にし、どんなことでも話し合えたり、自己を高め合ったりする職場の雰囲気づくりができてきているか。	B		
	教職員が互いにその努力を認め合い、励まし合うことのできる明るい職場づくりに努めているか。	A		
	クラスの目標は適切であったか。また、目標にせまるクラス経営ができたか。	B		
	安全や防災に関する組織を確立し、防災知識や危機管理の向上に努めたか。	B		
研修研究	積極的に園内外の研修に参加し、自らの資質向上に努めているか。	A	◎学びたいという意欲をもって、様々な研修を受け、知識や技術を身に付けることにつながった。 ◎学んだことを生かしながら、一人一人の特性に合わせた関わりや配慮を考えて保育することができた。 △引き続き、個々の困り感や内面を読み取り、個々に応じた支援を考え、試行錯誤しながら適した方法を見極める力を高める必要がある。 ※大きく変わろうとしている公立園や幼児教育の在り方を念頭に置きながら研修を重ね、職員間で話し合う機会を大切にする。	・忙しい日々の中でも様々な研修に参加し、努力していることが分かる。 ・一人一人の特性を考慮しながら関わろうとする工夫がいつも見られる。 ・幼小接続に向けて、教科書を使った研修は興味深い。さらに深めてほしい。
	時代の流れや社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、解決に向けた取り組みができたか。	A		
	多様な障がいの状態に応じた指導内容や方法、教育的配慮ができるように専門性の向上に努めたか。	B		
	今なお残る差別の実態を直視し、課題を深く認識するなかで自らの問題として捉え、あらゆる生活の場で人権教育・啓発を推進しているか。	B		
行事	各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意・工夫がされ幼児にとってふさわしい内容であったか。	A	◎音楽会を2回に、さらに2学期の音楽会を11月に早めたことで、なかよし会やお話遊びを幼児の興味や発達に寄り添いながら、遊びを進めやすかった。	・幼児の試行錯誤が見られ、面白かった。
家庭連携	保護者の願いや期待を受けとめ、共通理解のもと連携して保育を進めてきたか。	B	◎登降園時に保護者と会話する機会をもち、互いの思いを知ったり連携したりすることへつながった。 ◎リフレッシュ目的の預かり保育や宅配弁当など、保護者のニーズに合わせてできることを取り入れている。 ◎地域の方と新たな交流があり、貴重な体験を積むことができた。	・保護者のニーズを鑑み、新しい取り組み（宅配弁当やリフレッシュ目的の預かり保育など）を実践している。
	子育ての不安や悩みを受けとめ、積極的に子育て支援に努めたか。	A		
	地域の実情や保護者のニーズを踏まえ、子育て支援など「親と子の育ちの場」としての役割や機能が果たせたか。	B		

	<p>地域の人々の積極的な協力を得たり、地域の施設や環境などを園の教育活動に生かしたりしたか。</p>	<p>B</p>	<p>△園生活や保育で学んだことを分かりやすく伝えていく工夫が必要である。</p>	<p>・地域と一緒に幼児を育てる新たな取り組みを 実践していきましょう。</p>	
	<p>園だよりや園通信、懇談等により園の目標や方針を知らせ、保護者と相互理解するとともに信頼関係を深めていくことに努めたか。</p>	<p>A</p>	<p>※2学期以降も地域へ出向いて交流を図り、幼児の育ちを見てもらうことに努める。</p>		